

産学連携におけるリスクマネジメントについての取組みに当たっての基本方針

現在の産業界のイノベーション、国際化を取り巻く状況が大きく変化している中であって、大学の社会の発展に寄与する研究や取組みが年々大きくなっている。その結果、色々な産業界との連携が増え、今まで想定していなかったリスクに遭遇する蓋然性が高まっている。

大学は、そうしたリスクを回避し組織のインテグリティ（社会的信用性）を高めていく必要があり、そのためには、産学連携でのリスクマネジメントの強化は必然である。

一方で、大学におけるリスクマネジメントは、リスク管理部門以外の部門ではリスクに関する意識は低く、組織全体でのリスクマネジメントの体制構築が肝要である。

広島工業大学では、上記の問題をクリアすることを目的に、全学的なリスク抽出を行い、産学連携にかかるリスク対応について検討し、「リスク回避のためのマネジメント体制」を構築する。

<基本3原則>

1. 産学連携におけるリスクマネジメントについて、正しく認識し理解できるよう取組む
 - ・産学連携に関わる者が、リスクマネジメントの必要性やその意義・内容について正しく認識できるよう規定やマニュアル等の整備を行い、理解が進むよう啓発に取組む。
2. 実効的なマネジメント体制を確立する
 - ・規定やマニュアル等を適切にマネジメントし運用できるプロセスを作成する。また、リスク情報を的確に把握し、事象発生への対応に向けた仕組み作りや、外部人材の活用含めた人材を確保、育成などに取組む体制を整える。
3. 健全な産学連携を推進する
 - ・産学連携に関わる者が高いリスクへの意識を保持しつつ、積極的に産学連携に取組むよう、産学連携におけるリスクマネジメントの管理・運営を図り、健全な産学連携を推進する。

以 上